

「道の駅」は、「地方創生・観光の拠点」などの役割を期待した第3ステージの最中にある。コンセプトに沿った取り組みを産学官が連携して進めることで、道の駅がさらに地域を盛り上げる拠点となることを期待したい。

2月16日、館山市に道の駅「グリーンファーム館山」が開業した。「食と体験のテーマパーク」をコンセプトに、約2.3万㎡の敷地に野菜や果物の直売所や地元産のジビエや生乳などが味わえるレストランが設けられ、施設内の農園では野菜や花の収穫体験も楽しめる。

全国の道の駅は、登録が始まった93年の115駅をはじめとして90年代に多くが設置された。00年以降、ペースは鈍化したが、13年には1,000駅を超え、24年2月現在、1,213駅が登録されている(図表1)。

千葉県内の登録駅数は、今回の館山を含め30あり、全国で12番目、面積1,000km²あたりで4番目に多い

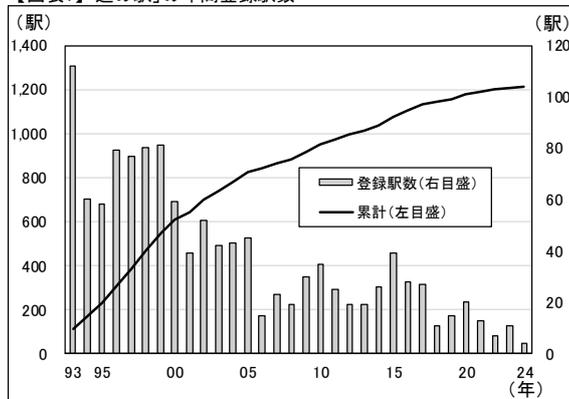
(図表2)。県南部に多くが立地し、06年に7町村の合併で誕生した南房総市には全国自治体で最も多い8駅がある。そのうち「とみうら」は、地域特産のビワを使った商品の開発・販売が生産農家の経営安定に貢献したことなどが評価され、「全国モデル『道の駅』」¹に選定されている。また、連携してツーリズムなどの充実を進める8駅全てが「南房総市道の駅」として「重点『道の駅』」²に指定されている。その他、発酵文化を内外に発信する「発酵の里こうざき」や健康をテーマにした多数の施設を併設する「つどいの郷むつざわ」など、特徴のある拠点が多い(図表3)。

道の駅の役割は、「道路利用者へのサービスの提供の場」である第1ステージ(93年～)、「道の駅自体が目的地」の第2ステージ(13年～)を経て、第3ステージの最中(20～25年)にある。第3ステージでは、「地方創生・観光の拠点」と「ネットワークによる地域デザイン」をコンセプトに掲げ、道の駅を「観光」、「防災」、「地域住民活動」の拠点として進化させ、「魅力ある地域づくりに貢献する」姿を目指している³(図表4)。

今後の運営を展望するうえで、県内道の駅が直面する課題は、施設老朽化への対応である。県内駅の約8割は第1ステージに登録されている。また、直売所に農水産物を供給する生産者の高齢化や人手不足などの問題も見え隠れする。

県内の道の駅は、千葉県が首都圏から日帰りのドライブ圏にあることや豊富な農水産物の産地であることなどを背景に、それぞれが創意工夫を凝らして発展してきた。第3ステージのコンセプトに沿った取り組みを産学官が連携して進めることにより、道の駅がさらに地域を盛り上げる拠点となることを期待したい(下出)。

【図表1】「道の駅」の年間登録駅数



(出所)国土交通省の資料をもとにちばぎん総研が作成

【図表2】都道府県別登録駅数

都道府県	駅数	順位	面積 1,000km ²	
			あたり駅数	順位
北海道	127	1	1.52	46
岐阜県	56	2	5.27	5
長野県	54	3	3.98	22
新潟県	42	4	3.34	30
岩手県	36	5	2.36	44
和歌山県	36	5	7.62	2
熊本県	36	5	4.86	12
～				
千葉県	30	12	5.82	4
～				
計	1,213		3.21	-

(出所)国土交通省、国土地理院のデータをもとにちばぎん総研が作成

【図表3】県内の「重点道の駅」

駅名(所在地)	特色
つどいの郷むつざわ(睦沢町)	先進予防型の街づくりの中核拠点となる健康支援型の道の駅
発酵の里こうざき(神崎町)	味噌や醤油など、町の資産である発酵文化を道の駅を核として世界に発信
季楽里あさひ(旭市)	基幹病院等とも連携し、豊富な地元農水産物を活用したメニューを開発
しょうなん(柏市)	地域のターミナルステーションとしてエリア情報の発信や課題解決に取り組む
南房総市道の駅(南房総市)	8つの道の駅が連携して施設リニューアルやツーリズムの充実等を実施

(出所)国土交通省の資料をもとにちばぎん総研が作成

【図表4】道の駅・第3ステージのコンセプト

目指す姿	主な取り組み
「地方創生・観光を加速する拠点」へ + ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献	「道の駅」を世界ブランドへ ・インバウンド観光への対応強化 ・周遊交通の機能強化
	新「防災道の駅」が全国の安心拠点に ・広域防災の機能強化 ・地域防災の機能強化
	あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに ・子育て応援強化 ・民間タイアップの強化

(出所)国土交通省の資料をもとにちばぎん総研が作成

¹ 地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮している駅(国土交通省が選定)

² 地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できる駅(同)

³ 第3ステージの折り返し時点となった22年には、施設の老朽化やコロナ禍を経た安定経営などの課題に対応し、道の駅機能の底上げを図る支援の強化が国土交通省より打ち出されている。